

国文学研究資料館報

第60号

平成15年3月

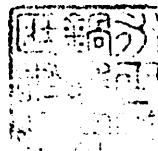
編集・発行者 国文学研究資料館
 東京都品川区豊町一六〇
 郵便番号 一四二八五八五
 電話 〇三三七八五七一一
 FAX 〇三三七八五七〇五一
 URL: <http://www.nijiac.jp/>
 印刷 株式会社三協社

新雕 皇朝類苑卷第一
祖宗聖訓

太祖

太祖聖性至仁雖用兵亦戒殺戮親征太原道經潞
 州麻衣和尚院躬禱於佛前曰此行止以弔伐爲意
 誓不殺一人開寶中遣將平金陵親召曹彬潘彥戒
 之曰城陷之日慎無殺戮設若困鬪則李煜一門不
 可加害故彬於江南得王師弔伐之體由
 聖訓丁寧也

初梁太祖因宣武府第修之爲建昌宮晉改命曰太
 寧宮周世宗復加營繕猶未盡如王者之制
 太祖始命改營之一如洛陽宮之制既成
 太祖坐正殿令洞開諸門直望之謂左右曰此如我



元和勅版 皇朝類苑 (16頁参照)

— 目 次 —

国文学研究資料館創立30周年

| | | | |
|------------------------|-------------|-------------------------|------|
| 記念式典の式辞・祝辞 | …… 2 | 新収和古書抄 平成14年 | ……14 |
| 記念展示・講演報告 | 参考室…… 8 | 新収資料紹介50：元和勅版 皇朝類苑 和田恭幸 | ……16 |
| 平成14年度展示・講演報告 | 参考室……10 | 彙報・人事異動 | ……17 |
| 平成15年度展示・講演予告 | 参考室……11 | 平成15年度共同研究・平成14年度共同研究追加 | ……21 |
| 第26回国際日本文学研究集会報告 情報資料室 | ……12 | 司書だより「芝居番付」 | |
| 第8回シンポジウム コンピュータ国文学報告 | | 〈当館のコレクションの中から①〉 鈴木一正 | ……22 |
| | データベース室……13 | 利用者へのお知らせ | ……23 |
| 文庫紹介38：輪王寺天海蔵 | 落合博志…… 7 | 平成15年度 春・夏季学会 | ……24 |

国文学研究資料館創立三十周年

国文学研究資料館は昭和四十七年に大学共同利用機関として設置されて以来、平成十四年で創立三十周年を迎え、十一月二十九日に特別講演及び記念式典を国立オリンピック記念青少年総合センターで挙行了した。特別講演では、「文学をよむ欲び」と題して中西進帝塚山学院長から講演があった。また記念式典には、文部科学省から小野元之文部科学事務次官を始めとする来賓や関係者一二五名の出席があった。

記念式典式辞

国文学研究資料館長

松野 陽一

国文学研究資料館の創立三十周年記念式典にあたりまして挨拶を申し上げます。当館は、創立に際し、また以後の三十年の今日にいたるまでの間に、さまざまな面で多くの方々の御尽力を賜りました。その、これまでお世話になりました方々をお迎えして、本日このような式を催すことができますことは、私どもの、こよなき喜びでございます。

特に本日は、小野文部科学事務次官を始め、北原筑波大学長、石毛国立民族学博物館長、黒澤国立国会図書館長の御臨席を賜り、ま

た、文部科学省、大学、研究機関など日ごろ研究面で関係の深い方々、そして、図書館、博物館、美術館、文書館など古典籍所蔵の機関や個人の方々、出版界、古書籍界、電子情報産業など当館の研究事業を支えて下さっている多方面の方々の御来臨を賜りまして式典を催せますこと、洵に光栄に存じます。御多用のところ御出席いただきましたことに、あつく御礼申し上げます。

なお、高円宮憲仁親王について一言申しあげます。殿下が、文化的にも幅広く御活躍されたことは周知のところでありますが、国文学の面から申しますと、毎年のお歌会始の御歌が注目されるところ

でありました。それは、温雅・精緻な歌を創られる皇族の歌々の中で、際やかに個性的な作品を詠まれているからであります。南海の水底をすべるように通るすぎるマントの魚影、北海の海上の上昇気流に乗って旋回する尾白鷺の翼の広がりなど、対象の動線に見入っている宮の鼓動の若さが伝わってくるようなお歌が印象的でありました。その宮様が、御自ら白鳥となつて天翔ることがかくも早かろうとは一信じられないことございました。願わくは殿下、天上白玉楼にお住まい遊ばされました上は、われらの日々の営みを永遠にみそなわし、加護賜らんことを、望むものであります。

本館は、昭和四十七年、大学共同利用機関として設立されました。第二次世界大戦の戦災、社会変動によって大きな被害を受けた日本古書籍の保存状況を正確に把握し、文化資源として将来にわたって活用できるようにすること、また、その調査収集資料によって、書物文化の面から日本文学の研究を行なうことが目標とされたわけであります。

この昭和四十七年には、岩波書

店の「国書総目録」が完成しました。国文学のコミユニティも全面協力し四半世紀をかけた仕事で、前近代千二百年間の日本書籍は、この段階で七十万タイトルの作品の現存が確認され、それを基礎台帳とした本館の基本事業、文献資料の調査・収集が開始されたのです。

本館の大学共同利用機関としての特色は、実にこの「調査・収集」の事業に端的に現われています。

調査・収集は、北海道から沖縄まで、大学の現任教員に調査員を委嘱し、原本所蔵者の許に赴いて、写本、版本一本一本について書誌カードを作成して貰っています。これが毎年一万点弱、今年で約三十万点が集積され、そのうち十八万点がフィルム収集されているのです。利用する資料をコミユニティ自身で研究集積することが「特色」であります。利用者は無論、広く他の分野の研究者や一般市民、海外の日本研究者に及んでいます。文化資源の活用に関する国家事業として、極めて重要な役割を果たしつつあると自覚しております。

平成九年度からは、近代文献資料室が増設され、空白だった明治

初期資料の調査・収集が可能になりました。同時にその手段も紙のカードから、パソコン、デジタルカメラ併用による書誌の電子情報化に切り換えられ、来年度からは、前近代の分も全て電子情報化すべく、準備を進めています。

電子情報化は、館の他の事業では、むしろ早くから先行して進められていました。「マイクロ資料目録」や「和古書目録」は昭和六十二年からデータベースのオンラインサービスを人文系機関では最初に始めており、論文情報「国文学年鑑」は平成四年から、また、平成十一年からは、源氏物語、二十一代集など古典本文のテキストデータベースの公開、実験公開ですが「日本古典文学大系」百巻の電子化本文データベースも発信しております。権利の問題がからみますので、一気に所蔵する資料情報、研究情報の全面公開というわけには行きませんが、既にかんがりの情報が、インターネットを通じて世界中の日本学研究者のパソコンに届く態勢に入りつつあるのです。しかし、コンテンツとしてはまだまだ質量ともに貧弱な初歩の段階です。これからしばらくは基

国文学研究資料館創立30周年記念式典



礎固めをしなければなりません。その一方で、一九四一年〜二〇〇〇年の研究情報を網羅した、精度の高さで評価の高い『国文学年鑑』の如き、活字媒体、印刷物の作成

も、各事業毎に、もうしばらくは継続の必要があると思います。

このほか、本館の研究や事業は、基礎資料に基盤を置いた「共同研究」、国際的な共同調査と研究、

集会に成果をあげ、また一般市民の根強い支持を受けての講演会や展示に努力を重ねています。

史料館は、戦後、存続の危ぶまれた史料保存のために昭和二十六



年に設置されました。二十年を経て、国文学研究資料館発足に際して、研究組織に改められ、附置機関となりました。五十万点に及ぶ史料や史料情報の、整理、研究、保存、修復、公刊を着実に積み重ね、史料管理学の共同研究、情報システム化を進めています。強調したいのは、今年から「アーカイブス・カレッジ」と改称しました史料管理学研修会の継続的開催で、アーキビスト養成教育が全国の文書館・図書館の現場で活動している人々の強い支持を得ていることです。幅広く懇切なカリキュラムが、現場の具体的な問題に即しての有用性を持っているからのことでしょう。新しくアーカイブス研究の確立を目指しての努力が始まったところです。

以上、当館の三十年にわたる問題点を疎々申し述べましたが、問題はこれからであります。

大学共同利用機関の目前の主要課題は、言うまでもなく法人化問題です。当館の場合はこれに、平成十五年度からの総研大加入、そして立川移転が加わります。現段階では、共同利用機関は四つの研究機構に改編され、国文研は、国

際日本文化研究センター、総合地球環境学研究所、国立民族学博物館、国立歴史民俗博物館との五機関で構成される、人間文化研究機構に入る予定になっております。機構本部がどのように設計されるのか、各機関はその傘下で如何位置づけられるのか、未確定な要素ばかりで不安ですが、いたづらに保身的になつてはいけないうでしょう。

前近代千二百年間の日本書籍の全てを調査し、利用できるようにするという当館の事業目的は、今後とも維持され、数世紀をかけても完成に近づくべきですが、新機構で共同で開拓してゆく新分野の研究に参加して行く以上、組織の変革やコミュニティとの関係の変動は覚悟しなければなりません。

日本の人文学全体の中で、文化資源の基盤としての書籍資料の研究は、今後どうあつたらよいのか、原点は見据えながら、積極的な可能性に挑んで行く時だと考えております。

最後に、御来臨の皆様方に今後とも相変わらぬ御指導、御支援をお願い申し上げ、挨拶といたします。

記念式典祝辞

文部科学大臣

遠山 敦子

本日ここに、国文学研究資料館創立三十周年記念式典が挙行されるに当たり、一言お祝いの言葉を申し上げます。

国文学研究資料館は、国文学に関する文献資料の調査研究、収集、整理、保存を目的とする大学共同利用機関として昭和四十七年に設置され、以来、我が国の国文学研究の中心的機関として活動してこられました。

この間、創立以来進められてきた全国各地に散在する古典籍等の収集事業により、現在、古活字版の「徒然草」をはじめとする貴重書やマイクロフィルム資料など約二十三万点が収蔵され、全国の研究者の利用に供されております。また、古典籍資料の原本、論文目録等をデータベース化して内外に発信する事業により、国文学に関する研究基盤を着実に築いてこられたところであります。

このように、本資料館が長年にわたり我が国の国文学研究の発展に多大な貢献をされ、このたび創

立三十周年を迎えられましたことは、歴代館長をはじめとする館員の皆様のためには、御努力の賜物であり、心から敬意を表する次第であります。

今日、我が国を含む国際社会は、世界的規模での人口問題、環境問題など、人間の生き方にかかわる様々な問題が顕在化している状況にあり、こうした諸問題の解決のためには、人文・社会科学の研究に大きな期待が寄せられております。また、人類の未来に向けた文化の継承と発展のためには、有用な文化的資料を適切に保存していくことが重要であることは申し上げるまでもありません。

このような状況を踏まえ、本資料館が、これまでの実績と持てる能力を十分に生かして、今後とも研究・事業活動の推進に努められ、さらに発展されることを、心から期待しております。

本日御列席の関係各位におかれましても、本資料館への一層の御理解と御支援をお願い申し上げますとともに、関係研究者及び職員の皆様がますますの御活躍を祈念いたしましてお祝いの言葉をいたします。

記念式典祝辞

筑波大学長

北原 保雄

国文学研究資料館がめでたく創立三十周年を迎えられた記念式典にあたり、御招待をいただき、また、祝辞を述べさせていただき、榮譽を賜りましたことに、感謝申し上げます。

日頃大変お世話になっている関係者の一人として心からお祝い申し上げます。

本資料館は、昭和四十一年十二月に日本学術会議が、政府に対して「国語、国文学研究資料センター」の設置を勧告したことに端を発し、昭和四十七年五月に設置されました。その後、全国各所に所蔵されている写本・版本等をはじめとする資料を、原本あるいはマイクロフィルム等によって収集し、保存するとともに、その多数をポジフィルムや紙焼写真本によって閲覧できるサービスを行ってくださっています。また、幕末から明治期にかけての資料収集についても、研究を開始されたと聞いております。

国内外の研究情報の収集にも力

を入れ、それを整理、分類して、毎年、「国文学年鑑」を刊行しておられます。また、マイクロ資料目録、和古書目録、国文学論文目録等の各データベースのオンライン検索サービスも行っておられます。これからは、フルテキストや原本画像のデータベースも充実させていかれるとのことで、国文学関係の研究者にとって裨益するところますます大となる、重要な研究機関であります。

資料収集の努力、尽力は大変なもので、私どもの附属図書館にも何年にもわたって継続して調査が行われたことはよく記憶しております。

本資料館は、誠に有益な、有り難い共同利用機関であります。研究者は、散在する各地の図書館や文庫、所蔵者のもとを訪ねず、居ながらにして原本を見ることがができます。また、苦勞せずに、研究情報や研究論文のフルテキストを手に入れることができます。これほどに便利になったことが、果たして研究者にとって全面的にいいことであるのかと、ふと考えたりすることもあります。が、わざわざ不便さを求めることはなく、そ

ういう苦勞をしない分だけ研究を高度化、多様化しなければならぬということでしょう。ともかく本資料館の存在と、その活動、事業はきわめて意義のあるものであり、その必要性、重要性はますます増大するばかりであります。これからは、日本国内所在本だけでなく、海外所在本の悉皆調査や収集も是非お願いしたいところであり、その他、情報センターとしてご計画のいろいろの事業と合わせて、一層の充実、発展が強く期待されるのであります。

三十年は、人間で言えば、論語にいう「而立」の年であり、まさに「立つ」年齢であります。ただ今、国立の機関におきましては、法人化の動きが急であります。法人化して、本当に自主、自律性が拡大するのか、私どもは心配しています。が、大学共同利用機関は、既成の研究分野を超えて連合し、四つの研究機構を構成することになっていきます。国文学研究資料館の場合は、国際日本文化研究センター、総合地球環境学研究所、国立民族学博物館、国立歴史民俗博物館の四機関と連合して、人間文化研究機構（仮称）を造るという

ことであります。旧来の学問領域の枠を超えて連合し、新しい人間科学のパラダイムを創出するという目的は結構であります。が、大学共同利用機関の役割や特性などに鑑みて、各機関の自律性、コミュニティの意向などが十分に尊重されるような機構でなければならぬのは当然であります。本資料館の設立趣旨、本来の目的、役割が損ねられることのないように、健全な発展を心から願うものであります。

個人的な話になりますが、私は専攻分野が国文学に近く、また、大学におきましては附属図書館長を四年勤め、本年は学長として図書館情報大学との統合をいたしました。そういう関係で、本資料館には大変お世話になり、また大きな関心をもっております。そして、もう一つ言わせていただきますと、筑波大学も、来年開学三十周年を迎えることになっております。

私ごとを申し上げて失礼しましたが、創立三十周年の歴史と成果を活かして、法人化、研究機構への再編、そして総研大への加入、などの大きな課題を乗り越えて、国文学研究資料館がますます発展

されますことを衷心よりお祈り申し上げて、お祝いの言葉といたします。

記念式典祝辞

国立国会図書館長

黒澤 隆雄

国文学研究資料館の創立三十周年にあたり、お祝いのごあいさつを申し上げる機会をいただきまして大変光栄に存じます。心からのお祝いを申し上げます。

まずは、歴代館長はじめ関係者の皆様の今日までのご苦勞・ご功績に対し、敬意を表したいと存じます。

国文学研究資料館は、大学共同利用機関として昭和四十七年に発足して以来、文字どおり国内外に存在する日本文学の文献資料をあまねく調査・収集して広く利用に供し、研究に寄与してこられました。その成果は、日々深められていく研究者諸氏の研究発表に結実するわけですが、組織としての活動は毎年の「国文学年鑑」を始めとする多様な出版や研修活動、データベースの作成提供となつて現れ、研究者から、また広く国民から、高く評価されていると

ころであります。特に、基本事業である文献資料の調査・収集では、三十万点を越える資料情報と、十七万点を越える資料の収集という大きな成果を挙げられ、さらに、近年の電子情報技術を取り入れた情報発信への取り組みには目を見張るものがあります。

国文学研究資料館の活動と私も国立国会図書館の活動とが立場を同じくする部面は、資料の収集と提供にあるかと存じます。国立国会図書館は、明治五年以来の書籍館、帝國図書館の資料を継承し、納本制度に基づいて収集した幾多の資料を加え、それらを基礎にして国会、行政及び司法の各部門、国民全体に奉仕しておりますが、本年十月の関西館開館を契機に、「近代デジタルライブラリー」と名づけた明治期刊行図書の画像データベースや国内刊行雑誌を採録対象とした「雑誌記事索引」データベースを公開するなど、電子的な情報発信も強化しております。私どものこうした取り組みは、日本人が有史以来積み重ねてきた文化的営みの成果の一端を収集保存し、現在の利用に供するとともに、後世に伝えるための努力であ

り、国文学研究資料館ともその目的を共有するものであります。喩えてみれば、両館は富士山を隣接した登山道から時には交わり時には分れて登つていると言えるかと思ひます。

今後組織変革が予定されていると伺いますが、これまでの不動の業績を基に、世界へ広がる日本文学研究の道をより広く大きな道とされますよう祈念申し上げます。祝辞といたします。

記念式典祝辞

国立民族学博物館長

石毛 直道

国文学研究資料館が創立三十周年を迎えられたことを、おなじ大学共同利用機関の一員として、心からお祝い申し上げます。

全国にはたくさんさんの国公私立の大学がありますが、大学に所属する研究者が、それぞれの所属する大学を越えて共同研究をおこなったり、施設や資料を共同で利用し、わが国の基礎的學術の研究センターとしての役割をはたしているのが、大学共同利用機関です。現在、一七の大学共同利用機関に所属する研究機関がありますが、この国

文学研究資料館は、全国で二番目に、文系の研究所としては最初に設立された大学共同利用機関であります。

国文学研究資料館という名称からわかるように、国文学に関する資料を収集し、それを整理して、研究することがおこなわれていますが、その調査収集の対象は文学の資料だけではなく、ひろく日本の書物の文化全般におよんでいます。

「国書総目録」によれば、古事記、日本書紀など、わが国で書物が出現したときから、江戸時代の終わりまでの、前近代一二〇〇年のあいだにつくられた現存する書物の数は、七〇万タイトルにおよぶとされます。明治時代以前の日本の書物に関する最も基本的な書誌である「国書総目録」は、この研究所の初代館長であった市古貞次先生が編集代表の一人として参加されて、つくられたものです。

国文学研究資料館では、この七〇万点の書物を、すべて原本にあつて書誌的調査をし、保存をはかり、文化資源として将来にわたって活用できるようにする事業に取り組んでいます。一年に七〇〇

○点以上の調査をおこない、一〇〇年かけて七〇万点すべてを調査するという、壮大な研究計画です。

それは、地味な作業ですが、国文学のみならず、歴史的な日本文化研究のすべての分野にかかわる、最も基礎的な研究であります。ナショナル・プロジェクトという名にふさわしい事業であります。

館の創設以来の、この三〇年間で三〇万点の調査を終え、そのうちの一八万点はマイクロ写真におさめ、閲覧することが出来るようになっていっていると伺います。百年の計が着実に実現しているわけで、館員の皆さんや、調査員として作業にあたられている大学の研究者の方々に敬意を表する次第です。

国文学というと、日本国内での研究ばかりかと思われがちですが、そうではありません。国外に所蔵されている歴史的な図書の書誌的調査研究や、海外の研究者との研究交流も活発におこなない、世界のなかでの国文学としての視野での研究活動がおこなわれております。日本文学関係の研究文献を網羅した「国文学年鑑」を刊行したり、各種のデータベースを作成するなど、研究情報の発信にも力を注いでおられます。

約九千人の日本文学の研究者コミュニティと、大学で国文学を学ぶ学生たちにとつての中核的な研究機関として貢献しているだけではなく、国史学研究者など、ひろく日本の歴史的な文化や社会の研究者たちに基礎的な情報を提供する国文学研究資料館の存在は、まことに貴重なものです。

さて、平成十六年四月に、国立大学の独立行政法人化と歩調をそろえて、われわれ大学共同利用機関も独立行政法人となる予定です。それを機に、大学共同利用機関が四つの機構に再編成されることになりました。

国文学研究資料館は、国立歴史民俗博物館、国際日本文化研究センター、国立民族学博物館、総合地球環境学研究所とともに、一つの法人となり、人間文化研究機構に参加することとなりました。この新しい研究組織のなかで、国文学研究資料館が新たな発展を上げられますことを祈念して、わたくしの祝辞といたします。

創立三十周年、おめでとうございます。

文庫紹介 ③

輪王寺天海蔵

室町末期から江戸初期に活躍した天台宗の傑僧天海（天文五年？～寛永二〇年）は、天台教学関係の初めとする各種の書籍を精力的に蒐集した。それらは今、日光山輪王寺と叡山文庫にままとって蔵される。前者がすなわち輪王寺天海蔵であり、現在は輪王寺宝物殿に保管されている。

輪王寺天海蔵は一般には非公開とされ、全体の目録も公表されていない。ただし渋谷亮泰師「昭和現在天台書籍綜合目録」や、長澤規矩也氏「日光山「天海蔵」主要古書解題」によってある部分までは蔵書内容を窺うことができ、優れた資料を数多く保有することは夙に知られていた。

この卓越したコレクションの調査をかねて念願していたところ、輪王寺門跡鈴木常俊殿下を初めとする各位の格別の御理解と、とりわけ宝物殿館長菅原信海先生の御高配を賜り、平成一二年度から調査をお許し頂けることとなった。ただし内典（仏書）については天台宗典編纂所が以前から調査を進めておられ、重複を避ける意味も

あり、当面は外典のみを調査するという形を採っている。

輪王寺天海蔵全体では約一九〇〇点の資料を擁するが、外典はそのうち約四五〇点を占める。内訳は、国書が約一五〇点、漢籍が約三〇〇点で、後者のうち中国・朝鮮の刊本（大半は明版）が約一四〇点、和刻本および和鈔本が約一六〇点である。国書・漢籍とも、日本の写本・刊本は若干の例外を除いて全て寛永以前のものである。内容の面では、国書は和歌・連歌・物語・漢詩文・辞書・史書・故実・神書・仮名抄など各分野に及ぶ。漢籍は四部全般に亘るが、中では明版「西遊記」などの、小説類の稀覯本が特に著聞する。

本の状態は概して良好であり、ほぼ天海の蒐集した当時の姿のままに伝えられて来た点は稀有な例と言えよう。原装を保つ江戸初期刊本が多く、中でも表紙の艶出し模様の美しく残っていることは特筆される。

きわめて質の高い蔵書であるだけに、語るべきことも多いが、所与の紙幅が尽き、僅かに概要のみを記して紹介の筆を擱く。

（文献資料部・落合博志）

創立三〇周年記念展示報告

平成一四年秋期において、当館創立三〇周年を記念する展示・講演を行った。展示・講演の企画・運営は、従来参考室が担ってきたのであるが、今年度から講演会・展示会等小委員会が、参考室の助力を得て任に当たることになった。まずその点をお断りした上で、その概要を報告しておきたい。

第三部「古典を手元に」

古典の日常化という仕事の中で、当館の役割を、業務に用いる調査カード・マイクロフィルム等を展示することによって紹介するもの。

三日(土・祝)の二度にわたって、上記小委員会のメンバーによるギャラリートークを行った。熱心な参加者に恵まれ、特に「春日懷紙」

等をガラスケースから出し、紙背に書かれた「万葉集」の痕跡を説明する等のパフォーマンスに人気が集まった。

創立三〇周年記念講演会報告

「詩歌の未来形——創作と研究——」

講演会は、一月一六日(土)に実施した。「詩歌の未来形——創作と研究——」をテーマに掲げ、鋭い研究者と実作者に講師をお願いして、次のようなプログラムを組んだ。

「古典和歌研究の一視点——貴人と「女房」——」

当館文献資料部教授

田淵句美子氏

「短歌創作における古典の活用」

歌人

水原紫苑氏

「恋、風景、日本の詩歌の季節——和歌から俳諧・俳句へ——」

コロンビア大学教授

ハルオ・シラネ氏

古典和歌と現代短歌を行き来しながら全体として響きあう御三方の講演内容は、主催者側としては狙いどおりのものであり、和歌を

中心とする日本詩歌が、伝統に裏打ちされた分、国境を越えにくい閉鎖性と懐の深さをあわせもつというシラネ氏の結論に、かえってこの点を何とか乗り越えようという研究者の心意気が看取された。当日は都内で和歌関係の催しが重なったこともあり、来聴者数は残念ながら予想を下回ったが、今回も行ったインターネットによるライブ中継のアクセス数は、逆に過去最高を記録し、接続可能な回線の数を遥かに超えるという結果になった。ご覧いただけなかった皆様には心よりお詫び申し上げ、併せて当日の画像付き記録が当館ホームページ上において公開されていることを付記させていただく次第である。

(参考室 大高洋司)

「源氏物語」を例に、漫画や映画など卓近な例から始めて、古典がどのような過程を経てテキスト化され、現代の日常生活の中に位置を占めているかを示したものの。

第二部「古典を伝える」

主として近世における書籍享受の様相を、史料館の収蔵品によって示したものの。



記念展示 ギャラリー・トーク風景



記念講演 水原紫苑氏



記念講演 ハルオ・シラネ氏

特別展示「高乗勲文庫貴重書展」

平成一四年五月二〇日(月)～三一日(金)

公開講演会

「本と人と研究と——高乗勲文庫から——」

平成一四年五月二四日(金)

高乗勲氏(明治三三年～昭和五五年)は、『徒然草の研究』などの著書を持ち、また古典籍の蒐集によっても知られる国文学者である。このたび当館は、高乗家の御厚意により、氏の旧蔵になる古典籍のすべてをお譲りいただいた。本展示は、その受贈を記念して開催されたもので、蔵書の中から、『徒然草』とその注釈書、歌集・物語・仏書など、約七〇点を展示した。中でも、『太平記』と『秋夜長物語』の合写本(いわゆる永和本)、『徒然草』の浄教坊実善旧蔵本や打曇表紙本、『徒然草寿命院抄』の写本や古活字版、『埜槌(野槌)』の初版本や再版本など、研究史的にも大きな意義を持つ諸本が公にされたことは、もって慶すべきであろう。

この特別展示に伴い、公開講演会を開催した。演題と講演者は、

以下の通りである。

「立志(きんし)恪勤(かくきん)の国文学者」

——序に代えて——

当館館長 松野陽一氏

「高乗勲氏蒐集の古典籍」

——「徒然草」関係資料その他——

当館文献資料部助教

落合博志氏

「永和本『太平記』をめぐる」

中京大学文学部教授

長谷川端氏

三氏の講演は、故高乗勲氏の学問とその人となり、『徒然草』関係資料が持つ本文解説上の意義、永和本『太平記』(前述)の研究史的問題など、実に多方面にわたる、高乗勲文庫の貴重さが改めて感得された次第である。当日は、中世文学研究者を含め一三〇名もの方々にお越しいただき、熱気あふれる講演会となった。

なお、右の講演の一部は、国文学研究資料館編古典講演シリーズ

⑨「田安德川家の蔵書と高乗勲文庫」に収められ、臨川書店より刊行の予定である。

古典連続講演(全五回)

「百人一首——王朝和歌から中世和歌へ——」

平成一二年度の「岩佐美代子」の語る源氏物語(岩佐美代子氏)、平成一三年の「連続講演 西鶴」(長谷川強氏)に続き、平成一四年は、立教大学名誉教授の井上宗雄氏に、『百人一首』の講演をお願いした。各回の日時と演題は、

以下の通りである。

①九月二六日(木)

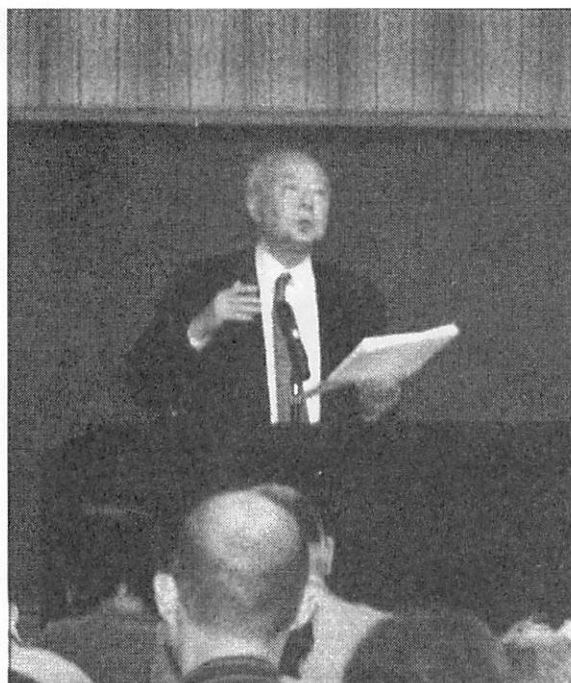
「百人一首の解釈について」

——「筋縄では行かぬ作品群」——

②一〇月一〇日(木)

「歌人群像」

——和歌と歌人どちらを優先



古典連続講演(井上宗雄氏)

したかー」

③ 一〇月二四日(木)

「和歌史の流れとともに」

「その多様な詠みぶり」

④ 一月七日(木)

「百人一首の成立」

「撰者藤原定家をめぐって」

⑤ 一月二一日(木)

「百人一首以後」

「百人一首はどのように受けとめられたか」

「中世歌壇史の研究」「平安後期歌人伝の研究」「鎌倉時代歌人伝の研究」など多くの著書を上梓され、和歌史研究・歌壇史研究の第一人者であられる井上氏のお話は、歌句一つ一つ、和歌一首一首の解釈から、歌人の伝記、藤原定家の撰歌意識、享受史や注釈史にいたるまで、実に幅広く奥深いものであった。聴講者は一般の古典ファンから大学院生まで毎回一四〇名を越え、たいへんな御好評をいただいた次第である。

なお、古典連続講演の内容は、古典ルネサンス①「西鶴」、古典ルネサンス②「百人一首」として、笠間書院より刊行の予定である。

(参考室 加藤昌嘉)

通常展示「和書のさまざま」のお知らせ

平成15年3月18日(火)～4月25日(金)

▼午前10時～午後4時30分 ▼土曜日曜祝日は休館 ▼入場無料

昭和59年以来恒例となりました通常展示「和書のさまざま」は、日本古典籍のいろいろな様態を紹介する書誌学入門的な展示として、毎年工夫を重ねております。和書の装訂や書型、写本や版本のありようを、多角的な構成で御覧いただきます。この展示が、古典籍への親しみを増していただく機会となれば幸いです。

特別展示「中村真一郎江戸漢詩文コレクション展」のお知らせ

平成15年5月26日(月)～6月6日(金)

▼午前10時～午後4時30分 ▼土曜日曜祝日は休館 ▼入場無料

今回は、作家中村真一郎の旧蔵になり、現在当館が所蔵する、江戸・明治期の漢詩文集のコレクションや、史伝『木村葉葭堂のサロン』の自筆原稿など、約70点を展示いたします。また、それに併せ、中村真一郎の文学と江戸の漢詩人についての公開講演会も開催いたします。いずれも、入場・聴講は無料です。多くの方々の御来観・御来聴をお待ちいたします。

公開講演会「中村真一郎の文学と江戸漢詩」のお知らせ

平成15年6月6日(金)

▼午後1時30分～

▼当館1階大会議室にて、1時より受付開始

▼先着150名 ▼聴講無料

「中村真一郎の文学の魅力」富岡幸一郎氏(関東学院大学助教授)

「江戸漢詩はやわかり」堀川貴司氏(当館研究情報部助教授)

「塀の中の「詩壇」」ロバート・キャンベル氏(東京大学大学院助教授)

第26回国際日本文学研究集会報告

第二六回国際日本文学研究集会

は平成一四年一月一四日(木)、
一五日(金)の両日開催された。

テーマは「文化のなかの文学、文学のなかの文化」文学研究の可能性―、研究発表が一〇本、公開講演が二本あった。参加者は一〇〇名(うち海外から三〇名)と例年よりやや少なかった。内容は以下の通り。

【第1セッション】

座長 神野藤昭夫

木越 治

◆二か国語併用と国風文化の創造の問題―「土佐日記」に於ける唐風文化との対話の視点から―
クシシュトフ・オルシエフスキ

(ヤギエウオ大学助教授)

◆「宮錦袍」をまとった李白と「恩賜の御衣」をしのぶ菅原道真

黄 幼 欣

(南台科技大学専任講師)

◆日韓滑稽文学における対比研究
試論―「東海道中膝栗毛」と

「興甫傳」を中心に―

康 志 賢

(麗水大学校助教授)

【第2セッション】

座長 ロバート・キャンベル

坪井 秀人

◆「不如帰」の「翻訳」―「小説不如帰」から「家庭新詩 不如帰の歌」へ―

権 丁 熙

(東京大学大学院博士課程)

◆雑誌「女人芸術」の座談会における〈新しい女〉の考察

シュリーデヴィ・レッディ

(筑波大学大学院博士課程)

◆「気候と信仰と持病と」から見る(皇民文学者)周金波研究の可能性

唐 瓊 瑜

(武蔵大学総合研究所奨励研究員)

◆拡散する〈身勢打鈴〉―李恢成「砧をうつ女」にみる朝鮮文化の変容―

金 貞 愛

(筑波大学大学院博士課程)

【第3セッション】

座長 小峯 和明

◆謡曲「飛鳥川」の作品研究

サオワラック・スリヤウオン

グパイサーン

(チュラーロンコーン大学助教授)

◆住吉明神と白楽天―中世における翁の形象化をめぐる―

金 賢 旭

(東京大学大学院博士課程)

◆祭祀行列における童子の職掌―中世前期を中心として―

小山 聡子

(筑波大学大学院博士課程)

◆旅の文化・旅の文学

今関 敏子

(川村学園女子大学教授)

◆和歌に依る法華経の解釈

今関 敏子

これらの内容を収めた会議録は三月刊行。また、次回第二七回は平成一五年一月一三日(木)一四日(金)の両日、「剽窃・模倣・オリジナリティ―日本文学の想像力を問う―」というテーマで開催予定。詳しくは当館ホームページ(<http://www.nijiac.jp>)を御覧下さい。

―慈円・尊円を中心に―

ジャン・ノエル・ロベール

(フランス国立高等研究院教授)

国文学研究資料館客員教授



国文学研究資料館「第八回シンポジウム・コンピュータ国文学」開催

出版とアカデミズム

国文学研究資料館では、平成一四年（二月六日（金））に、第八回の標記シンポジウムを開催した。

今回は、「出版とアカデミズム」というテーマのもとに、国文学研究の基盤に関わる情報群の発信に携わってきた出版関係者を交えて、自由討論の形式でメッセージを届けることとなった。

学術研究上「有用」な情報の多くの部分が、すでにネットワーク上に格納される情報資源で事足りる時代になってきた。インターネットによる論文の公開もさかに行われる一方で、従来の学術出版社は、その経営基盤を脆弱にしつつあり、これまでこつこつと積み上げてきた学術出版の編集という営為が成り立ちがなくなるのではないかという懸念も現実的な問題になるうとしている。

事態は、出版の経済的危機にとどまらない。学術専門書出版の危機は「学術コミュニケーション」の

危機でもあるからである。このことは、国文学という、ITリテラシーにジェネレーションギャップを構造的に抱える伝統的学問領域には、致命的なことなのかもしれない。

そこで、今回のシンポジウムでは、かかる問題意識を念頭に置きつつ、「コーディネーター」「流通」「評価」などの観点から、学術専門出版社と研究者とがともに考える「討論」を企画した。

なお、ディスカッションのすべでは、インターネットでライブ中継した。会場に来られない多くの方々にも参加していただけた。のべアクセス数からの推定ではあるが、三〇〇人弱の視聴があった。国文学研究資料館のイベントのネット中継は、今回で六回目となる。情報発信技術の一つとして、これで確立したことになる。今後は、さらに安定した発信となるように努力したい。また、講演資料など

は、国文学研究資料館のホームページでも公開している。

時代の趨勢としてのペーパーレス化に対応すべく、印刷物としての「講演集」は、一昨年度よりインターネットを通しての閲覧に移行している。ご理解とご協力のほどを、よろしくお願いしたい。

【討論出席者／パネラー】

石川 透（慶應義塾大学）

大内英範（早稲田大学・非常勤）
久保田年美（株・藤原印刷）

坂倉良一（株・おうふう）

重光 徹（株・笠間書院）

中村一夫（関西大学・非常勤）

松本 功（ひつじ書房）

谷川恵一（国文学研究資料館）

入口敦志（国文学研究資料館）

相田 満（国文学研究資料館）

伊藤鉄也（国文学研究資料館）



新収和古書抄 平成一四年

源氏物語

大本 写五四冊

〔江戸初期〕写。黄土色の原装表紙に金銀泥下絵を施す。表紙中央の丹色題簽には金銀泥下絵と金砂子。見返しは亀甲紋等金箔押し。二六・三〇・一九・八種の袋綴本。一面九行。異文注記・補入の墨書き入れや、句点・濁点の朱書き入れがままある。本文は、いわゆる青表紙本系統のうち、三条西家や連歌師の間で流布した諸本に近似。けんどん箱は引き出し部分のみ漆塗り。蓋表の打疊題簽に「堂上三筆／源氏ものかたり」、蓋裏の後補貼紙に「源氏 全部五拾四冊／御染筆／飛鳥井前大納言雅重卿／久我大納言広道卿／鳥丸左大弁光祖卿」とある。箱そのものは他からの流用か。美麗な造りから高家に伝わった嫁入り本と目される。

源氏物語 行幸巻

古活字版 大本一冊

無刊記。〔慶長中〕頃刊の、いわゆる伝嵯峨本。二八・七×二一・三種。一面二行、字高二・三種、各行約二一字。原装の

平成一四年

表紙は、薄桃色・呉粉引き・雲母散らし。雲母刷り白色題簽に、光悦風の書体で「行幸」と印刷。初葉に「瀬能蔵書」「飯山宮之印」「臨野堂文庫」の印記。現在知られる数種の伝嵯峨本のうち、「弘文莊待賢古書目」四五号（昭和四九年）に載る「伝嵯峨本源氏物語」全五四冊（青谿書屋旧蔵本）と、形態は合致する。（サ四一七三）

散木奇歌集

写一〇卷三冊

茶色刷毛引表紙。二七・二×二〇・三種。黒田亮氏蔵書印「瘦松園文庫章」あり。下巻二八丁うまでは散木奇歌集、それ以降が頭昭の注。注の最初は「をくろさき」の歌。寿永二年頭昭奥書並びに文禄三年注記の後、安永八年正月十日付小沢蘆庵の奥書を有し、國學院大学蔵本等と同じ系統に属する。奥書によると青筆は蘆庵の書入であるが、国文研初雁文庫蔵本（二一三〇八一二）等に見られる入江昌喜の青書入との重なりは少なくない。昌喜と蘆庵との親交を考えると、同祖本による校合の可能

性もあるか。

大原談義聞書抄 古活字版 一冊

後補蔀色表紙、二五・七×一七・三種。外題欠。内題「大原談義聞書抄」。每半葉七行。一行一七字詰。無刊記。元和寛永中刊。卷末に「六字名号口伝」・「大原問答起御書」（共に整版）を合綴す。（ヤ四一〇七）

古今序註

大本 写二冊

天文一五年（一五四六）写。二卷。料紙は斐楮交流紙、押界一〇行。本文共紙表紙、二五・六×一八・四種。内題は「古今和調集序聞書上（下）」。外題は別筆でそれぞれ「古今序註」「古今序聞書」と左肩にうちつけ書き。内容は片桐洋一氏「中世古今集注釈書解題二」に紹介翻刻された「古今和歌集序聞書三流抄」で、奥書に「弘安九年閏十二月十八日談儀畢／定家 余風 能基」など見える。諸本のうち書写年代の最も遡る一本である。

東鑑 伏見版（古活字）

大本 存一九冊

雲龍空押文様・丁子茶色表紙。

二七・六×二〇・九種。後補題簽存（無辺・墨書、文字極めて不鮮明）。内題「新刊吾妻鏡卷第二（一五十二）」。有界二行、一行二〇字詰。漢文無訓。四周双辺。版心「東鑑二（一五十二）」。跋末「慶長十稔星集乙巳春三月 前龍山見鹿苑承兌覽」。卷一欠。ヤヤ疲本。（ヤ二一四七）

靈巖寺縁起

写一軸

後補表紙、雲・龍・宝珠等の織文。三四・三×五二・〇種の鳥の子二七紙から成る。毎紙一行、金界。内題「紀伊國在田郡廣庄補陀山／靈巖寺縁起」。奥書「応永改元歲次甲戌十一月廿七日書」。更に別筆で「此縁起者耕雲之御筆也／内大臣右近大將藤原長親公御出／家之後扁所居之軒称耕雲法諱／明魏則京北妙光寺本願／内相府四代之御孫也」とある。雁蕩山能仁寺の縁起。藤原長親自筆本か。（九九一〇二）

隆達節歌謡集

写本 一帖

一七・三×一一・三種の折本。全一〇折。題記を欠くが、隆達節歌謡集のうち小歌集の一本。見返しに「鳥丸光廣卿」と記した極札

様の紙片がある。光広風の書体で、江戸初期の書写。歌数は完全なものの三四首と、第一面右端に歌詞の後半だけのもの三首。従つてもとは三七首以上を収めていた歌本の、前が欠けた形と推定される。うち二首は従来知られていない歌謡で、新出の小歌かと思われる。墨譜なし。

おもはく哥合 半紙本 刊一冊

延宝九年正月刊。松本勝左衛門梓行。印記「遊戲三昧院」「紫香蔵」。役者と遊女をとりあわせて評した評判記。本書は瀧田貞治氏による写本と野間光辰氏による転写本が知られていたのみで「歌舞伎評判記集成」(岩波書店)の翻刻も、野間光辰氏の写本によるものであった。本館収蔵のものは、これらのものになった版本と確定できる貴重な書である。

江戸諸用綱見図 半紙本 刊一冊

縹色無地原装表紙、二二・二×一六・三糎。外題原題簽中央「江戸諸□□見図□」。書名は内題による。全二二・五丁。刊記(一丁裏、目録末尾にあり)「元禄八歳(乙亥)三月吉日(江戸通油町)」。佐藤四郎右衛門板。内容は江戸の地誌で、元禄二年刊「江戸図鑑綱目」乾巻に似るが、冒頭に源頼朝から徳川家綱までの歴代將軍略伝を置く点などが異なる。この版元の出版書は他に元禄四年刊「日本鹿子」(長谷川甚九郎と相版)、元禄五年刊「俳林一字幽蘭集」が知られる。印記「百樹の」(花岡百樹)。(ヤハ六一二四三)

英草紙

半紙本 刊五冊

藍色表紙、題簽はほとんど剥落。第五巻のみ角書「古今奇談」残存。近路行者(都賀庭鐘)が初期説本における「奇談」の様式を確立した名作。当該本は刊記に「寛延二年龍集己巳九月出来」とあって西村源六(江戸)・柏原清右衛門(大坂)・菊屋惣兵衛(同)が並び、右側に後編「繁野話」(明和三年刊)の出版広告が掲載されており、再印本と目される。

落嘶

京鹿子 中本 刊一冊

黄表紙形態の嘶本。「国書総目録」「日本小説書目年表」「古典籍総合目録」に記載されていない。武藤禎夫氏著「江戸風俗 絵入り小咄を読む」にも未紹介であり、

かなり珍しい本と思われる。黄色無地表紙。多色刷りの原題簽有り。柱題「京かのこ」。鳥居清経画。安永年間刊か。一〇丁。江戸・伊勢屋次助板。保存状態良好。「かけくら」以下二〇話が、清経画の挿し絵の上部三分の一に、雲形郭線で区切って書かれる。

ぶたい番付集 貼り込み帖 一冊

安政三年から五年にかけての、上方芝居番付の貼り込み帖。全五六枚を貼り込む。内訳は、大坂の歌舞伎番付三四枚、京都の歌舞伎番付一枚、堺の歌舞伎番付二枚、大坂の人形浄瑠璃番付七枚、浮世絵二枚。この内、安政三年五月吉日より道頓堀法善寺境内での「男作五郎金」の番付は「義太夫年表近世篇」未載の新出番付。(ヤハ一一三二)

見立七小町ノ内 大判錦絵七枚

安政五年七月八月改印の揃い物。三代目歌川豊国画。江戸・山崎屋清七板。保存状態は極めて良好。七小町を画題とする浮世絵は多いが、本揃い物は単に当世風俗で七小町を描くのではなく、七小町の一つ一つを、近世演劇に登場する

人物に見立て、それを当時の人気役者の似顔絵で描いたもの。例えば「清水小町」は「園部左衛門」で、仮名字「薄雪物語」に取材した浄瑠璃「新薄雪物語」の登場人物。清水寺という共通点で見立てたもの。歌舞伎役者二代目沢村訥升の似顔で描かれる。

天台四教儀 本園寺版(古活字)

大本一冊

後補洪引表紙。二八・一×一九・六糎。外題「天台四教儀」(後補・墨書)。版心「四教儀」(上下花魚尾)。科註本。刊記「於洛陽本國寺之内開板 寛永三丙寅九月吉日」。千手寺旧蔵。(ワ三一二二九)

法華靈驗伝 古活字版 大本二冊

洪引原表紙。二八・六×一九・七糎。原題簽「法華靈驗伝」(刷・双辺・左肩)。内題「法華靈驗伝卷上(下)」。每半葉一〇行、一行二〇字詰。漢文無訓。四周双辺、二二・一×一五・五糎。版心「靈驗伝上(下)」(小黒口・上下花魚尾)。無刊記、慶長元年中刊本。伊州新大仏寺旧蔵。(ヤ四二〇六)

新収資料紹介⑤

元和勅版

皇朝類苑

【書誌】宋江少虞編。後水尾天皇勅版。元和七年古活字刊本。大本、存一三冊。全七八卷附目錄一卷の内、目錄および卷二八・三三の二冊を欠く。

〔表紙〕薄香色原表紙。寸法、二八・三×二一・四cm。原表紙であるが、見返紙を新補、さらに各冊の前後に遊紙一丁宛を新補する。

題簽下に「全拾五冊」と墨書。〔外題〕「皇朝類苑（下部少破損）」、後補題簽・無辺・墨書・左肩。なお、本書の諸伝本に見る原表紙外題は打ち付け書き。〔内題〕「新雕

皇朝類苑卷第一（一七十八）」。〔版心〕「皇朝卷一（一七十八）」、小黒口・上下黒魚尾。〔匡郭〕四周双辺、二二・二×一六・六cm。毎半葉一三行、一行二〇字詰。漢

文無訓。跋文、有界八行、漢文無訓。跋末「元和七年重光作噩六月晦日 前南禅臣僧瑞保謹書（印）」。

印記「永田町鍋島家蔵書印」（単郭方印・朱文）。少虫食・補修入り。〔当館請求記号〕ワ3-132。

近年ようやく、当館にも古活字刊本の代表的な原本資料が次第に集まってきた。

古活字刊本（古活字版）とは文禄年間から江戸時代初期の寛永年間（慶安もしくは寛文年間にも見られる）に刊行された、活字印刷による書物の呼称である。江戸時代中期以後の活字印刷物と区別する意味をも含めて、「古活字」と称する。いづれの善本展においても、近世初期刊本の「華」として飾られる、一連の貴重書である。

ところで、およそ大学で国文学史の講義、こと近世文学史の講義が行われる際には、ちょうど四月下旬頃、古活字版についての講義が行われる筈である。

というのも、近世小説の多くは、商業出版と不即不離の關係にあつて、書誌的な諸事情に目を閉ざすことは、なかなか難しいからなのである。

しかし、困ったことに、古活字刊本の多くは貴重書である。誰しも、一度（原物）を見さえすれば、

「ああ、こんなモノか」と合点できるのだから、代表的な（見本）の原本収集は、何をおいても急がれるべきであつた。ともあれ、大学院の開設と呼応して、ようやく当館にもそれを備えることができた、そんな具合である。

さて、活字印刷の技術は、文禄二年、豊臣秀吉による朝鮮半島への侵略によつてもたらされた。一方、これとは別に、キリスト教の宣教師が将来した西洋式の印刷術が存在する。書誌学研究においては、後者をキリシタン版と称し、古活字刊本一般とは、一応の区別をすることが慣例となつてゐる。

今日、古活字刊本の各々には、刊行主体によつて、様々な呼称が与えられている。天皇による勅版、徳川家康による伏見版・駿河版、寺院版の要法寺版・本願寺版等々である。便宜上、大雑把なものの謂いをお許し頂くならば、為政者から、寺院、富裕な篤志家、そして黎明的な出版書肆へと、刊行主体の推移を眺望することができよう。

勅版には、後陽成天皇による慶長勅版（慶長二・八年）と、今般紹介の後水尾天皇による元和勅版

の二種類が存在する。

慶長勅版は、文禄二年における「古文孝経」の刊行を初発とするが、当該原本の伝存は未だ不明である。これに対し、慶長二年から同八年にかけて刊行された「勸学文」「錦繡段」「日本書紀神代卷」「古文孝経」「四書」「白氏五紀曲」は伝存。

慶長勅版の特色は、大形で優美な木活字を使用する点と、堂々たる木記を以てした刊記である。

その他、閲覧の記憶を手繰り寄せるならば、財団法人東洋文庫所蔵「勸学文」（慶長二年刊）の見返しなど、実に印象的であつた。「上ヨリ 特直ニ拝領 慶長二年八月廿六日」との識語が備わっており、上梓そして下賜という、その時代の臨場感を感じさせてくれる。

さて、斯様の慶長勅版に続く元和勅版は、ガラリと異なつた版面を見せつけてくれる。それは、小形で細く、それでいて鮮明な、実に整然とした版面である。さて、使用の活字は如何なるものであつたのか、以後の究明の鶴首されるところである。

（文献資料部・和田恭幸）

彙報

・委員会日誌・

平成14年

7月2日 公開等データベース

小委員会

7月3日 ホームページ小委員会

7月9日 図書資料委員会

7月11日 創立三十周年記念事

業委員会

7月18日 講演会・展示等小委

員会

7月23日 公開等データベース

小委員会

7月24日 自己点検・評価委員会

7月25日 図書選定小委員会

7月30日 将来構想委員会

7月31日 ホームページ小委員会

8月1日 国際日本文学研究集

会委員会

8月6日 将来構想委員会

8月13日 広報委員会

8月14日 将来構想委員会

8月15日 業務委員会

8月27日 創立三十周年記念誌

編集小委員会

8月28日 公開等データベース

小委員会

9月5日 講演会・展示等小委

員会

9月5日 図書資料委員会

9月10日 業務委員会

9月24日 ホームページ小委員会

9月24日 講演会・展示等小委

員会

9月26日 業務委員会

10月3日 図書選定小委員会

10月3日 紀要委員会

10月4日 創立三十周年記念事

業委員会

10月4日 原本テキストデー

10月8日 大学院設置準備委員会

10月9日 ホームページ小委員会

10月15日 貴重書指定小委員会

10月15日 大学院教育協力委員会

10月17日 大学院専攻(準備)

委員会

10月22日 講演会・展示等小委

員会

10月24日 入学者選抜準備委員会

11月11日 図書選定小委員会

11月13日 ホームページ小委員会

11月14日 国際日本文学研究集

会委員会

11月22日 将来構想委員会

11月22日 創立三十周年記念事

業委員会

12月3日 教育研究準備委員会

12月5日 共同研究委員会

12月10日 創立三十周年記念事

12月11日 業務委員会

12月11日 ホームページ小委員会

12月17日 講演会・展示等小委

員会

12月26日 将来構想委員会

12月26日 研究・事業小委員会

12月26日 研究・事業小委員会

12月26日 研究・事業小委員会

12月26日 研究・事業小委員会

12月26日 研究・事業小委員会

12月26日 研究・事業小委員会

12月26日 研究・事業小委員会

12月26日 研究・事業小委員会

12月26日 研究・事業小委員会

12月26日 研究・事業小委員会

12月26日 研究・事業小委員会

12月26日 研究・事業小委員会

12月26日 研究・事業小委員会

12月26日 研究・事業小委員会

12月26日 研究・事業小委員会

12月26日 研究・事業小委員会

12月26日 研究・事業小委員会

12月26日 研究・事業小委員会

12月26日 研究・事業小委員会

12月26日 研究・事業小委員会

12月26日 研究・事業小委員会

12月26日 研究・事業小委員会

12月26日 研究・事業小委員会

12月26日 研究・事業小委員会

館長の選考及び名誉教授の候補者

について、平成十五年一月十七日

(金)の第二回評議員会では、館

長候補者の選定について協議が行

われた。

・外国出張・

谷川 恵一・齋藤 希史

渡航先 ロシア連邦共和国

目的 第二次世界大戦後の混

乱期に於ける旧植民地

所在圖書の動向を追跡

調査

期間 平成14年5月25日

平成14年5月30日

原 正一郎

渡航先 スペイン・デンマーク

王国

目的 国際コラボレーション

による日本文学研究資

料情報組織化と発信に

関する調査研究

期間 平成14年5月28日

平成14年6月6日

野本 忠司

渡航先 アメリカ合衆国

目的 Association for Com-

putational Linguistics

40th Anniversary

Meetingにおこつ研究

成果の発表

期間 平成14年7月5日～
平成14年7月14日

北村 啓子

渡航先 アメリカ合衆国

目的 ACM/IEEE合同データ
ライブラリ国際会議
への参加

期間 平成14年7月14日～
平成14年7月19日

原 正一郎

渡航先 台湾

目的 人文科学研究支援コ
ラボレーション機能に
関する実証的研究

期間 平成14年7月17日～
平成14年7月20日

伊藤 鉄也

渡航先 連合王国

目的 国際コラボレーション
による日本文学研究資
料情報の組織化と発信
に関する調査研究

期間 平成14年7月19日～
平成14年7月26日

相田 満

渡航先 中華人民共和国

目的 国際コラボレーション
による日本文学研究資
料情報の組織化と発信

期間 平成14年7月20日～
平成14年7月25日

入口 敦志

渡航先 台湾

目的 中国東北部における日
本語資料Network化に
関する基礎的研究

期間 平成14年7月23日～
平成14年7月28日

原 正一郎

渡航先 アメリカ合衆国

目的 国際コラボレーション
による日本文学研究資
料情報の組織化と発信
の研究

期間 平成14年7月28日～
平成14年8月11日

安藤 正人

渡航先 連合王国

目的 戦争とアーカイブズを
めぐる国際法と国際慣
行―上海市土地記録な
らびに在外公館文書を
めぐる日英の確執を中
心に

期間 平成14年8月1日～
平成14年8月31日

加藤 聖文

渡航先 台湾

目的 「日本旧植民地支配地
におけるアーカイブズ
政策と記録伝存過程の
研究」に基づく台湾内
日本関係史料調査

期間 平成14年8月5日～
平成14年8月21日

和田 恭幸

渡航先 大韓民国

目的 韓国国内に所蔵される
日本刊本の書誌調査

期間 平成14年8月7日～
平成14年8月10日

入口 敦志

渡航先 大韓民国

目的 十七世紀に出版された
日・中・韓の漢籍所在
調査

期間 平成14年8月7日～
平成14年8月10日

野本 忠司

渡航先 フィンランド共和国

目的 ACM SIGRUCにお
いて研究成果の発表をお
こなう。

期間 平成14年8月10日～
平成14年8月17日

安永 尚志

渡航先 連合王国

目的 古典テキストのコンテ

ンツ形式について国際
環境を整備するため

期間 平成14年8月21日～
平成14年9月5日

青木 睦

渡航先 カナダ・アメリカ合衆国

目的 版本・錦絵・古文書等
の紙質測定技術に
関するカナダ・アメリカの
研究状況の調査研究と
IIC（国際保存科学
会）十九回国際学会へ
の出席

期間 平成14年8月31日～
平成14年9月9日

渡辺 浩一

渡航先 連合王国

目的 第六回都市史研究国際
会議での研究報告

期間 平成14年9月4日～
平成14年9月9日

入口 敦志

渡航先 中華人民共和国

目的 旧植民地所在の日本書
籍の重点資料の本文研
究と総合解題目録作成
のための現地資料調査

期間 平成14年9月5日～
平成14年9月18日

岡 雅彦

渡航先 台湾

| | | | | | | | | |
|---|--|------------------------------|--|--|-------------------|--|--|---|
| <p>渡航先 アメリカ合衆国 目的 ニューヨーク市立図書館 ペンサールコレクション ン美術館蔵江戸時代絵 本の調査</p> | <p>期間 平成14年9月10日～ 平成14年9月19日</p> | <p>大高 洋司</p> | <p>渡航先 中華人民共和国 目的 本館文献資料部の日本 古典籍調査・収集の一 環として、旧植民地残 置本である大連図書館 所蔵の日本書籍を調 査・収集</p> | <p>期間 平成14年9月12日～ 平成14年9月16日</p> | <p>安永 尚志</p> | <p>渡航先 イタリア共和国 目的 国際コラボレーションに よる日本文学研究史料 情報の組織化のために 重要なコンテンツ作成</p> | <p>期間 平成14年9月23日～ 平成14年10月4日</p> | <p>伊藤 鉄也 渡航先 連合王国 目的 外国語による日本文学 研究文献のデータベース</p> |
| <p>ス化に関する予備調査 及び研究打合せ</p> | <p>期間 平成14年10月12日～ 平成14年10月18日</p> | <p>堀川 貴司</p> | <p>渡航先 中華人民共和国 目的 北京図書館、北京大学 図書館所蔵日本文献の 調査</p> | <p>期間 平成14年10月19日～ 平成14年10月26日</p> | <p>岡 雅彦・谷川 恵一</p> | <p>渡航先 中華人民共和国 目的 北京図書館、北京大學 図書館所蔵日本文献の 調査</p> | <p>期間 平成14年10月20日～ 平成14年10月26日</p> | <p>山崎 誠 渡航先 グリシア共和国・トル コ共和国 目的 非アルファベット系文 字による総合データベ ースシステムの研究</p> |
| <p>収集</p> | <p>期間 平成14年11月17日～ 平成14年11月19日</p> | <p>山下 則子・和田 恭幸 江戸 英雄</p> | <p>渡航先 大韓民国 目的 韓国国立中央図書館所 蔵旧総督府本の調査・ 収集</p> | <p>期間 平成14年11月17日～ 平成14年11月22日</p> | <p>堀川 貴司</p> | <p>渡航先 フランス共和国 目的 仏国所在の近代以前日 本関係書籍に関する日 仏学術調査</p> | <p>期間 平成14年11月21日～ 平成14年12月22日</p> | <p>丑木 幸男 渡航先 大韓民国 目的 日本旧植民地・占領地 におけるアーカイブズ 政策と記録伝存過程の 研究</p> |
| <p>政策と記録伝存過程の 研究</p> | <p>期間 平成14年11月23日～ 平成14年11月30日</p> | <p>原 正一郎</p> | <p>渡航先 オーストラリア 目的 歴史史料デジタル化支 援システムの研究のため</p> | <p>期間 平成14年11月23日～ 平成14年11月30日</p> | <p>鈴木 淳</p> | <p>渡航先 連合王国・ドイツ連邦 共和国 目的 ドイツ国ブルヴェラー 家、英国図書館所蔵の 絵本を中心とする日本 古典籍の調査研究</p> | <p>期間 平成14年12月1日～ 平成14年12月11日</p> | <p>北村 啓子 渡航先 シンガポール共和国・ マレーシア 目的 アジア電子図書館国際 会議ならびにマレーシ ア国立図書館の電子図 書館会議に出席</p> |
| <p>研究</p> | <p>期間 平成14年12月11日～ 平成14年12月20日</p> | <p>安藤 正人</p> | <p>渡航先 シンガポール共和国 目的 シンガポール共和国</p> | <p>期間 平成14年12月20日</p> | <p>安藤 正人</p> | <p>渡航先 シンガポール共和国 目的 シンガポール共和国</p> | <p>期間 平成14年12月20日</p> | <p>渡航先 シンガポール共和国</p> |

目的 旧日本植民地・占領地

におけるアーカイブズ
政策と記録伝存過程の
研究

期 間 平成14年12月15日～

平成14年12月20日

伊藤 鉄也

目的 フランス共和国
国際コラボレーション
による日本文学資料情
報の組織化と発信に関
する調査研究

期 間 平成14年12月16日～

平成14年12月22日

岡 雅彦

目的 アメリカ合衆国
ニューヨークパブリッ
クライブラリー所蔵江
戸絵本の調査

期 間 平成15年1月2日～

武井 協三

目的 渡航先 連合王国
国際コラボレーション
による日本文学研究資
料情報の組織化と発信
に関する調査研究

期 間 平成15年1月3日～

平成15年1月10日

安永 尚志

渡航先 連合王国

目的 特定領域研究における
プロダクトの平行テキ
ストの校正、分析、評
価

期 間 平成15年1月24日～

平成15年2月1日

加藤 聖文

目的 渡航先 中華人民共和国
旧日本植民地・占領地
におけるアーカイブズ
政策と記録伝存過程の
研究に関する史料調査
と収集

期 間 平成15年1月26日～

平成15年1月30日

谷川 恵一・齋藤 希史

久保木秀夫・中野真麻理

渡航先 フランス共和国

目的 バリ東洋図書館所蔵
和刻古典籍の調査

期 間 平成15年1月28日～

平成15年2月1日

安藤 正人

目的 渡航先 中華人民共和国
旧日本植民地・占領地
におけるアーカイブズ
政策と記録伝存過程の
研究のため

期 間 平成15年1月28日～

平成15年2月1日

人事異動

(平成14年9月～平成15年1月)

○平成14年9月30日限り

兼任任期満了

文献資料部第五文献資料室

前期兼任助教授 赤松 万里

(鳴門教育大学学校教育学部教授)

再任用任期満了

管理部庶務課 竹之内重雄

○平成14年10月1日付け

転出

文献資料部第四文献資料室助教授

齋藤 希史

(東京大学大学院総合文化研究科

助教授)

兼任

文献資料部第四文献資料室助教授

齋藤 希史

(東京大学大学院総合文化研究科

助教授)

兼任

文献資料部第五文献資料室

後期兼任助教授 石坂 妙子

(新潟大学教育人間科学部助教授)

転入

管理部庶務課庶務係 佐藤 崇

(文部科学省大臣官房政策課事務

情報化推進室から)

平成15年度共同研究

十市遠忠自筆資料群の悉皆調査とその書誌的研究

初期章双紙の網羅的解題のための研究

武井 和人 (埼玉大学教授)

黒石 陽子 (東京学芸大学助教授)

三村 晃功 (京都光華女子大学教授)

加藤 康子 (梅花女子大学助教授)

末柄 豊 (東京大学史料編纂所)

有働 裕 (愛知教育大学助教授)

助手

山下 琢巳 (東京成徳短期大学助教授)

池和田有紀 (宮内庁書陵部)

教授

小林 大輔 (早稲田大学本庄高等学院非常勤講師)

丹 和浩 (東京学芸大学附属高等学校大泉校舎教諭)

高橋 育子 (お茶の水女子大学大学院生)

細谷 敦仁 (東京都立八王子高等学校教諭)

小川 剛生 (国文学研究資料館助教授)

湯浅 佳子 (東京学芸大学講師)

久保木秀夫 (国文学研究資料館助手)

桧山 裕子 (青山学院高等部非常勤講師)

中世年中行事書の研究

山下 則子 (国文学研究資料館助教授)

鈴木 元 (熊本県立大学助教授)

随心院聖教に見る文学関係資料、および寺院ネットワークに関する研究

伊藤 敬 (元・藤女子大学教授)

渡辺 信和 (同朋大学仏教文化研究所研究室長)

佐藤 厚子 (相山女学院大学助教授)

湯谷 祐三 (名古屋大学大学院生)

吉森佳奈子 (信州大学助教授)

藤巻 和宏 (杉野服飾大学非常勤講師)

石田 実洋 (宮内庁書陵部)

川鶴 進一 (早稲田大学本庄高等学院教諭)

佐々木孝浩 (慶應義塾大学附属研究所道文庫助教授)

牧野 和夫 (実践女子大学教授)

山田 尚子 (慶應義塾大学大学院生)

中野真麻理 (国文学研究資料館助手)

小川 剛生 (国文学研究資料館助教授)

ロペール、ジャンノエル (国文学研究資料館客員)

学院教諭

高橋 秀城 (大東文化大学大学院生)

柳沢 正志 (早稲田大学大学院生)

田戸 大智 (早稲田大学大学院生)

相田 満 (国文学研究資料館助手)

平成14年度共同研究追加

經典解釈としての慈圓・尊圓の詠

教授・フランス国立大学高等研究院教授

法華和歌集

定型詩歌に見る韓日文化の比較研究

阿部 泰郎 (名古屋大学教授)

鈴木 健一 (日本女子大学教授)

石川 一 (県立広島女子大学教授)

東 聖子 (十文字学園女子大学短期大学部教授)

彌永 信美 (東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所外部研究員)

深沢 眞二 (和光大学助教授)

大久保良峻 (早稲田大学教授)

藤田 眞一 (関西大学教授)

末本文美士 (東京大学大学院教授)

光田 和伸 (国際日本文化研究センター助教授)

フランソワ・ラシヨ

松野 陽一 (国文学研究資料館長)

山田 昭全 (埼玉学園大学教授)

鈴木 淳 (国文学研究資料館教授)

松野 陽一 (国文学研究資料館長)

大高 洋司 (国文学研究資料館教授)

谷川 恵一 (国文学研究資料館教授)

堀川 貴司 (国文学研究資料館助教授)

松村 雄二 (国文学研究資料館教授)

入口 敦志 (国文学研究資料館助手)

鈴木 淳 (国文学研究資料館教授)

金 貞 禮 (国文学研究資料館客員助教授・全南大学校副教授)

田淵句美子 (国文学研究資料館教授)

堀川 貴司 (国文学研究資料館助教授)

堀川 貴司 (国文学研究資料館助教授)

松野 陽一 (国文学研究資料館長)

堀川 貴司 (国文学研究資料館助教授)

鈴木 淳 (国文学研究資料館教授)

田淵句美子 (国文学研究資料館教授)

大高 洋司 (国文学研究資料館教授)

堀川 貴司 (国文学研究資料館助教授)

入口 敦志 (国文学研究資料館助手)

堀川 貴司 (国文学研究資料館助教授)

金 貞 禮 (国文学研究資料館客員助教授・全南大学校副教授)

堀川 貴司 (国文学研究資料館助教授)

松野 陽一 (国文学研究資料館長)

堀川 貴司 (国文学研究資料館助教授)

鈴木 淳 (国文学研究資料館教授)

堀川 貴司 (国文学研究資料館助教授)

大高 洋司 (国文学研究資料館教授)

堀川 貴司 (国文学研究資料館助教授)

入口 敦志 (国文学研究資料館助手)

堀川 貴司 (国文学研究資料館助教授)

金 貞 禮 (国文学研究資料館客員助教授・全南大学校副教授)

堀川 貴司 (国文学研究資料館助教授)

松野 陽一 (国文学研究資料館長)

堀川 貴司 (国文学研究資料館助教授)

鈴木 淳 (国文学研究資料館教授)

司書だより

「芝居番付」

当館のコレクションの中から①

これまで当館が受入した資料につきましては、「新収和古書抄」「新収資料紹介」等で紹介してまいりました。今回から、このコーナーで、当館のコレクションの中から、特殊資料等、特色のある資料を順次、ご紹介してみたいと思います。

当館では、江戸末期から明治・大正期にかけての一枚物の芝居番付を約三四〇枚所蔵しております。番付の種類、座名、上演年月、枚数は、次のとおりです（都市別・年代順、カッコ内は請求記号）。

（一）歌舞伎番付

〈役割番付〉

- ・四条・北側 明治4年11月（12-51）1枚
- ・四条・南側 明治5年1月〜23年8月（12-34）13枚
- ・四条・道場芝居 明治5年4月〜13年1月（12-33）9枚
- ・四条・北側 明治12年11月〜20年3月（12-35）14枚
- ・西京・祇園座 明治19年4月（12-38）1枚

- ・新京極・坂井座 明治22年9月（12-36）1枚
- ・新京極・常盤座 明治24年9月（12-37）2枚
- ・道頓堀・中の芝居 天保12年5月〜明治22年12月（12-39）65枚
- ・道頓堀・角の芝居 万延元年1月〜明治21年1月（12-40）69枚
- ・道頓堀・竹田芝居 文久2年1月、慶応3年4月（12-43）2枚
- ・道頓堀・筑後芝居 文久2年1月〜明治8年7月（12-42）12枚
- ・大阪・座摩社内芝居 文久2年2月（12-47）1枚
- ・大阪・松島芝居 明治5年3月〜9年3月（12-46）5枚
- ・道頓堀・若太夫芝居 明治6年2月、9月、7年1月（12-44）3枚
- ・大阪・堀江芝居 明治9年4月（12-45）2枚
- ・道頓堀・戎座 明治10年1月〜20年6月（12-41）47枚
- ・泉州・堺 文政9年3月〜明治7年3月（12-24）7枚
- ・奈良・瓦堂芝居 江戸後期（12-48）2枚
- ・上方（角の芝居ほか）明治15年11月〜16年5月（12-32）8枚

（二）浄瑠璃番付

- ・新京極・歌舞伎座 大正8年3月〜9月（12-20-2-8）7枚
- ・四条・南座 大正8年4月〜9年7月（12-20-9-12）4枚
- ・道頓堀・朝日座 明治24年9月（12-20-13）1枚
- ・本郷・春木座 明治12年7月〜15年5月（12-57）3枚
- ・新富町・猿若座 明治15年1月〜17年11月（12-54）3枚
- ・猿若町・市村座 明治15年1月〜20年5月（12-53）14枚
- ・新富町・新富座 明治16年1月〜20年10月（12-58）13枚
- ・蛸殻町・中嶋座 明治19年4月（12-56）1枚
- ・久松町・千歳座 明治18年8月〜21年4月（12-52）10枚
- ・西島越町・中村座 明治21年4月（12-55）1枚
- ・鶴巻町・早稲田座 明治43年10月（12-20-1）1枚
- 〈書入番付〉
- ・高崎・播磨 江戸後期（12-50）1枚
- （三）浄瑠璃番付
- ・座本・竹本登名太夫 明治17年1月（12-49）1枚
- ・見立番付 江戸後期（12-9）1枚

・素人浄瑠璃番付 江戸後期（12-14-19）8枚

・安政・文久頃の浄瑠璃會の番付（彩色刷物）（12-11-13）3枚

そのほか、冊子の番付集として、歌舞伎番付では、天保・嘉永・安政期頃の中の芝居、角の芝居などの役割番付集「大坂芝居番付」（18-100）4冊、文化中期から弘化・嘉永期頃の道頓堀各座等の絵本番付集「大坂芝居絵番付」（18-101）18冊があります。また、浄瑠璃番付集では、竹本摂津大掾旧蔵の貼込帖の3点があります。これについて詳しくは、本誌58号の神津武男「竹本摂津大掾旧蔵人形浄瑠璃番付集―「古今操便覧」など―」（新収資料紹介48）をご覧ください。

さらに、冊子の絵本番付として、幕末から明治十年代にかけての東京各座（春木座・中村座・奥田座・村山座・都座・新富座・守田座）のもの45冊があります（18-215-221）。そのほか、安政三年から五年にかけての上方芝居番付の貼込帖に「ぶたい番付集」（18-222）があります（本号15頁参照）。

（参考普及係 鈴木一正）

利用者へのお知らせ

◆「国書総目録」の著作権取得

このたび岩波書店より、「国書総目録」(岩波書店刊)の著作権譲渡を受けたので報告します。

当館では、「国書総目録」収録以降の日本古典籍の総合目録作成を古典籍総合目録作成事業により継続してきました。一九九〇年の目録刊行以降、より利用価値のあるデータの提供を目指し、「国書総目録」を含むデータベースのネットワークでの公開について、著作権者である岩波書店と話し合いを行ってきた結果、平成十五年一月、著作権譲渡の合意となったものです。

これにより当館では、文献資料調査事業と相俟って、貴重なデータである「国書総目録」を発展的に継承し、日本古典籍書誌情報に関する網羅的な総合目録データベースの提供を進める所存です。既に中心となるデータは電子化されており、今後計画を策定し、公開に向けて準備する予定です(所在情報を除くデータについては「国書基本データベース」<http://base4.nijiac.jp/koten/>として)

インターネット実験公開中)。今後の各方面のご助言、ご支援をお願いします。

◆山口県文書館のサービス区分の変更について

このたび、山口県文書館(文庫番号245)のマイクロ資料のサービス区分が「D」から「B」に変わりました。

これまで、紙焼写真または電子複写の申込(ボジフィルム複製は不可)の際には、事前に所蔵者の許可が必要でしたが、今後は事後報告を提出することになりました。

◆新指定の貴重書、特別コレクション

今回、次の資料が新たに貴重書と特別コレクションに指定されました。これにより、貴重書は一点、特別コレクションは一〇コレクションとなりました。

〈貴重書〉

- ・手拭合(天明四年刊 一冊)
- ・脈語(慶長七年刊 一冊)
- ・隆達小歌集(隆達節歌謡集)(江戸初期写 一軸)
- ・観世流謡本(室町末期写 六冊)

・霊巖寺縁起(応永元年写 一軸)

〈特別コレクション〉

・高乗勲文庫(写本・版本六三八点、一、九七三冊)

詳しくは、「貴重書」については、「国文学研究資料館創立30周年記念 特別展示図録」の解題を、「特別コレクション」の高乗勲文庫は、本誌58号の落合博志「高乗勲氏旧蔵 古典籍資料の受贈について」をご覧ください。

なお、「貴重書」(特別コレクション)の閲覧には、「貴重書等閲覧許可願」が必要です。

◆利用案内

利用資格 学術研究のために当館の資料を必要とする人

利用手続 初めて利用される方は登録が必要です。身分証明書を

持参のうえ、カウンターで登録申請を行ってください。「資料利用カード」を発行します。

閲覧請求受付時間

九時半～十二時
十三時～十六時半

来館できない場合の利用方法

所属大学の図書館等を通して文献複写及び貸出サービスが受けられます。また、個人が郵送で文献複写の申込をすることも可能です。詳細は整理閲覧部情報サービス係(内線四五八)にお問い合わせください。

開室及び休室日一覧
(15.4.1～15.9.30)

○印は休室日

■ 閲覧時間
9:00～17:00■ 複写受付時間
9:30～15:30

| 4 | | | | | | | 5 | | | | | | |
|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|
| 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 | 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 |
| 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 |
| 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 |
| 20 | 21 | 22 | 23 | 24 | 25 | 26 | 18 | 19 | 20 | 21 | 22 | 23 | 24 |
| 27 | 28 | 29 | 30 | | | | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 | 30 | 31 |
| 6 | | | | | | | 7 | | | | | | |
| 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 | 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 |
| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 |
| 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 |
| 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 | 20 | 21 | 22 | 23 | 24 | 25 | 26 |
| 22 | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 | 27 | 28 | 29 | 30 | 31 | | |
| 8 | | | | | | | 9 | | | | | | |
| 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 | 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 |
| 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 |
| 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 |
| 17 | 18 | 19 | 20 | 21 | 22 | 23 | 21 | 22 | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 |
| 24 | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 | 30 | 28 | 29 | 30 | | | | |

平成15年度 春・夏季学会

①事務局 ②開催日 ③会場

(詳細は当館ホームページhttp://www.nijl.ac.jp/「学会情報」参照)

- 解釈学会 ①〒113-8622 文京区本駒込5-16-9 日本学会事務センター内 03-5814-5810 ②8月20・21日
 ③ノートルダム清心女子大学
 楽劇学会 ①〒101-0051 千代田区神田神保町3-6 能楽番林ビル内 03-5275-7767 ②6月中 ③未定
 劇点語学会 ①〒155-0032 世田谷区代沢1-20-10 fax 03-3487-4891 ②5月16日 ③大阪女子大学
 芸能史研究会 ①〒602-0855 京都市上京区河原町荒神口下上生洲町221 キトウビル303号 075-251-2371 ②6月1日
 ③キャンパスプラザ京都
 計量国語学会 ①〒167-8585 杉並区善福寺2 東京女子大学3号館3118号室内 03-5382-6339 ②9月13日 ③東京大学
 国語学会 ①〒113-0033 文京区本郷7-3-1 東京大学文学部国語研究室内 03-5841-3813 事務取扱 〒113-0033 文京区本郷1-13-7 日吉ハイツ404 03-5802-0615 ②5月17日・18日 ③大阪女子大学
 古事記学会 ①〒162-8601 新宿区神楽坂1-3 東京理科大学理学部第2部教養 斎藤研究室 03-3260-4272(内)2384
 ②6月21・22日 ③國學院大学
 古代文学会 ①〒179-0071 練馬区旭町3-24-21-402 山口敦史方 ②8月19～21日 ③箱根・旅館千條
 上代文学会 ①〒142-8602 品川区大崎4-2-16 立正大学文学部906(近藤)研究室内 03-5487-3286 ②5月24～26日
 ③北海道大学
 昭和文学会 ①〒101-0064 千代田区猿楽町2-2-5 笠間書院内 03-3295-1331 ②6月14日 ③早稲田大学
 説話・伝承学会 ①〒606-8588 京都市左京区岩倉木野町137 京都精華大学文学部人文学科 堤邦彦研究室内 ②5月3・4日
 ③京都精華大学
 説話文学会 ①〒214-8580 川崎市多摩区東三田2-1-1 専修大学文学部石黒吉次郎研究室内 044-911-1230 fax044-911-1231
 ②6月21～23日 ③駒沢大学
 全国大学国語教育学会 ①〒305-8572 つくば市天王台1-1-1 筑波大学教育学系人文科教育学研究室 029-853-6733
 ②5月24・25日 ③早稲田大学教育学部
 全国大学国語国文学会 ①〒101-0064 千代田区猿楽町1-3-1 (株)おうふう気付 03-3294-0857 ②6月7～9日
 ③日本大学文理学部
 中古文学会 ①〒101-8301 千代田区神田駿河台1-1 明治大学文学部日向研究室内 03-3296-2194(fax兼用) ②5月10・11日
 ③明治大学
 中世文学会 ①〒108-8345 港区三田2-15-45 慶應義塾大学文学部石川透研究室内 03-3453-4511(代) ②5月23～25日
 ③聖徳大学
 日本演劇学会 ①〒560-8532 豊中市待兼山町1-5 大阪大学大学院文学研究科演劇学研究室内 06-6850-6111 ②5月23～25日
 ③関西外国語大学
 日本音声学会 ①〒113-8622 文京区本駒込5-16-9 日本学会事務センター内 03-5814-5810 ②9月27・28日 ③関西大学
 日本歌謡学会 ①〒340-0042 草加市学園町1-1 獨協大学外国語学部言語文化学科飯島一彦研究室内 048-943-1039(fax兼用)
 kijima@dokkyo.ac.jp ②5月10・11日 ③明治大学
 日本近世文学会 ①〒102-8357 千代田区三番町12 大妻女子大学文学部江本裕研究室内 03-5275-6028 ②6月7～9日
 ③清泉女子大学
 日本近代文学会 ①〒169-8050 新宿区西早稲田1-6-1 早稲田大学教育学部東郷美研究室内 03-5286-1590 事務取扱 〒113-8622 文京区本駒込5-16-9 日本学会事務センター内 03-5814-5810 ②5月24・25日 ③和洋女子大学
 日本言語学会 ①〒602-8048 京都市上京区下立売通小川東入 075-415-3661 ②6月21・22日 ③青山学院大学
 日本口承文芸学会 ①〒150-8440 渋谷区東4-10-28 國學院大学文学部伝承文学研究室内 03-5466-0224 ②6月7・8日
 ③岩手県遠野市
 日本語教育学会 ①〒101-0065 千代田区西神田2-4-1 東方学会新館 03-3262-4291 ②5月24・25日 ③一橋大学
 日本国語教育学会 ①〒112-0012 文京区大塚3-29-1 日本教育研究連合会第3研究室内 03-3941-3420 ②8月11・12日
 ③青山学院大学
 日本社会文学会 ①〒840-8502 佐賀市本庄1 佐賀大学文化教育学部日本・アジア文化講座 0952-28-8221 ②6月7・8日
 ③文教大学
 日本比較文学会 ①〒565-0043 豊中市待兼山町1-5 大阪大学文学部内藤高研究室内 06-6850-6111(代) ②6月14・15日
 ③日本大学国際関係学部
 日本文学協会 ①〒170-0005 豊島区南大塚2-17-10 03-3941-2740 ②7月6日 ③龍谷大学
 日本文学風土学会 ①〒277-8585 東葛飾郡沼南町大井2590 二松学舎大学文学部 04-7191-8573 ②6月14日 ③東洋大学
 日本文芸研究会 ①〒980-8576 仙台市青葉区川内 東北大学文学部国文学研究室内 022-217-5957 ②6月14・15日
 ③東北大学
 日本文体験学会 ①〒110-0004 台東区下谷1-5-34 三修社内 03-3842-1711 ②6月13・14日 ③桐蔭横浜大学
 日本方言研究会 ①〒980-8576 仙台市青葉区川内 東北大学大学院文学研究科国語学研究室気付 日本方言研究会事務局
 022-217-5987 Fax 022-217-5988 ②5月16日 ③大阪府立大学
 能楽学会 ①〒169-8050 新宿区西早稲田1-6-1 早稲田大学坪内博士記念演劇博物館内 03-5286-1829 ②3月16・17日
 ③早稲田大学
 表現学会 ①〒101-0064 千代田区猿楽町1-3-1 03-3294-2174 fax03-3294-2132 ②6月7・8日 ③広島大学
 仏教文学会 ①〒605-8501 京都市東山区今熊野北日吉町35 京都女子大学国文研究室内 075-531-9070 ②6月7・8日
 ③京都女子大学
 美夫君志会 ①〒466-8666 名古屋市中昭和区八事本町101-2 中京大学文学部国文学研究室内 052-832-2151(代)
 ②6月28・29日 ③中京大学
 物語研究会 ①〒113-0021 東京都文京区本駒込6-7-10 藤井貞和方 03-3947-6309 fsdkz@nifty.com ②8月21～24日
 ③高知女子大学・高知市文化プラザ小ホール
 和漢比較文学会 ①〒102-8160 千代田区富士見2-17-1 法政大学文学部天野紀代子研究室内 03-3264-9479 ②9月20・21日
 ③法政大学